

金融分野 スモールミーティング

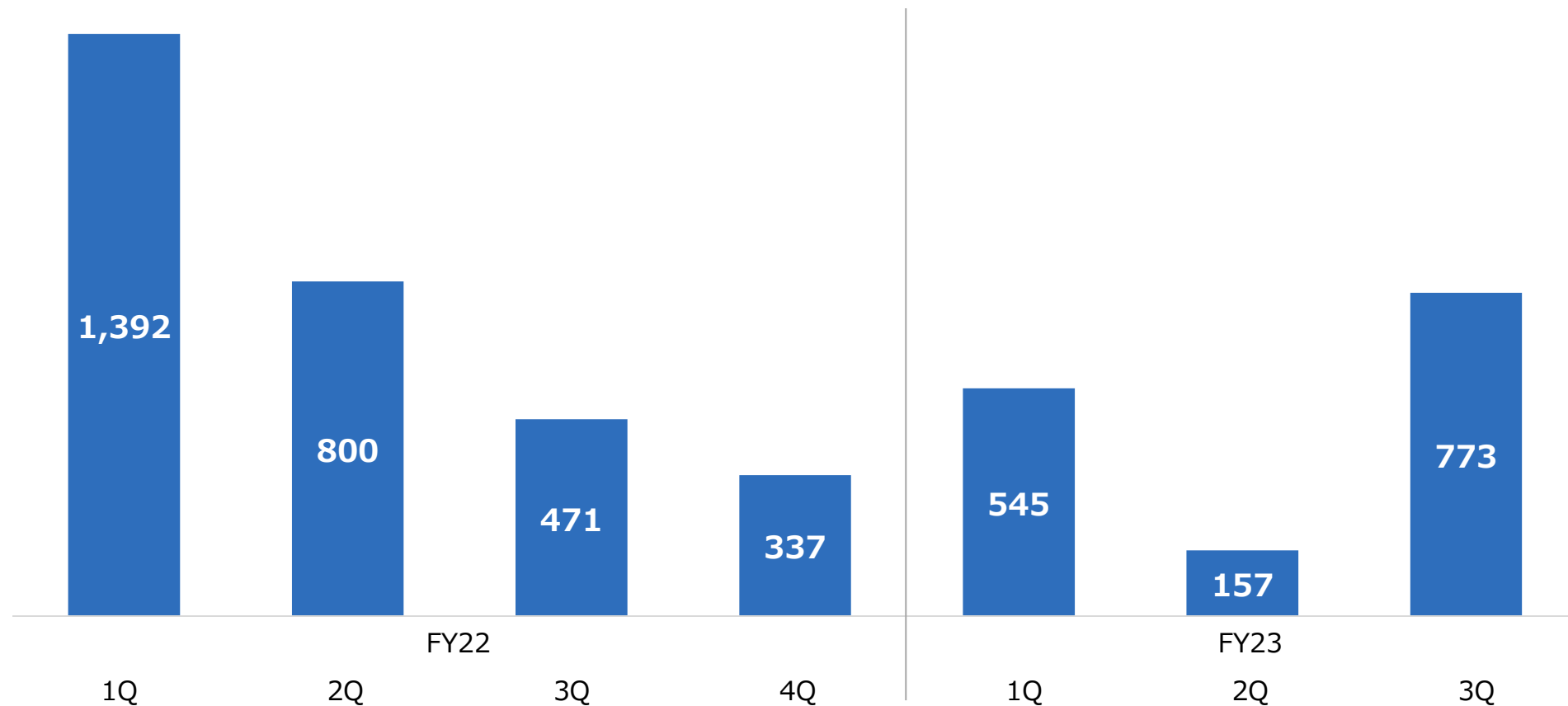
2024年3月27日

金融分野の営業利益

- IFRS第17号導入後の金融分野の営業利益は大きく変動

金融分野の営業利益（IFRS第17号）

(億円)



ソニー生命の営業利益

- 金融分野の営業利益の大宗を占めるソニー生命の営業利益は大きく変動しているが、生命保険事業から生じる保険サービス損益は安定的に推移

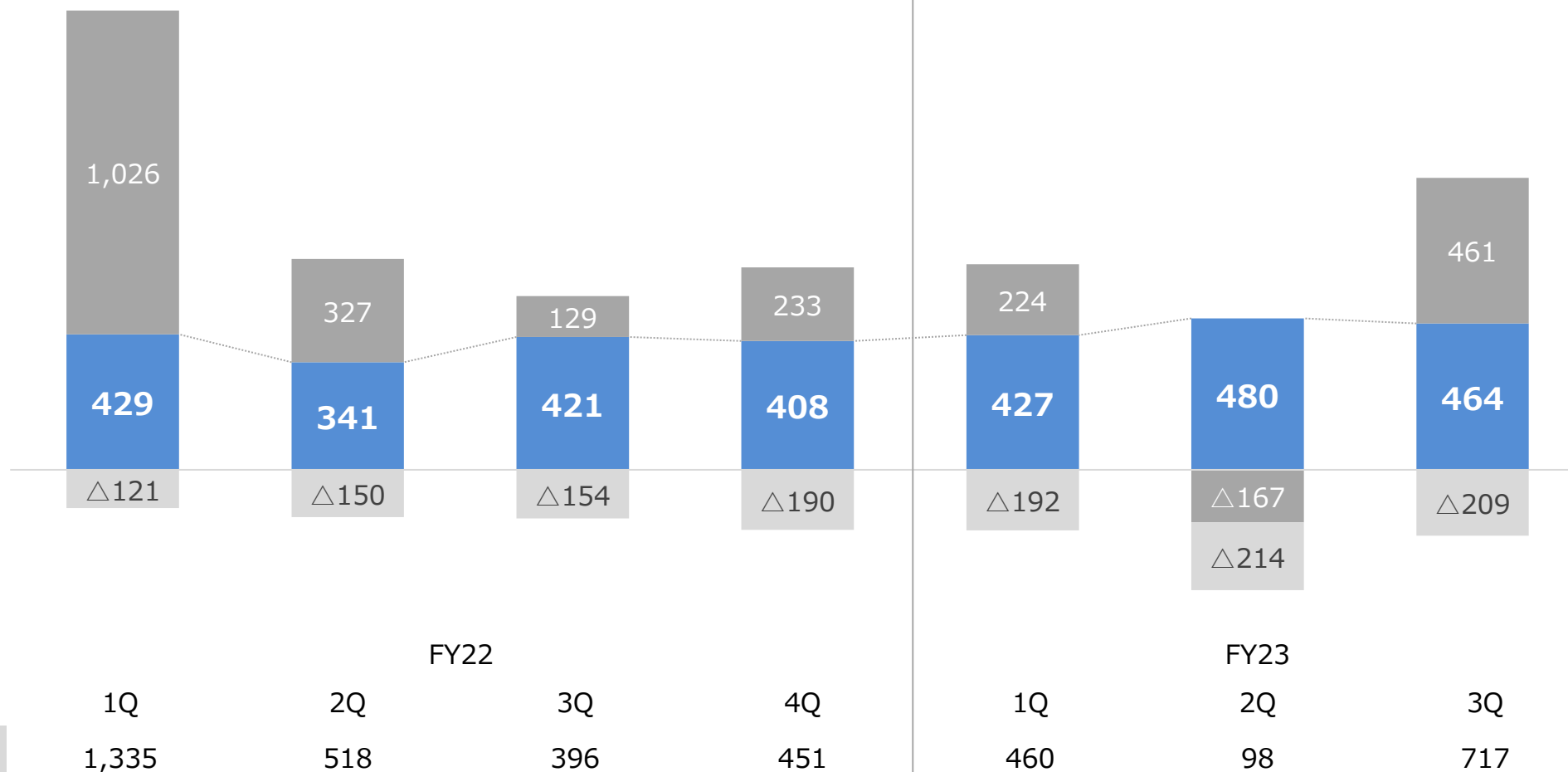
ソニー生命の営業利益内訳 (IFRS第17号)

(億円)

■ 保険サービス損益

■ 投資損益

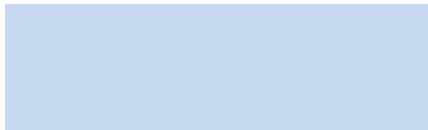
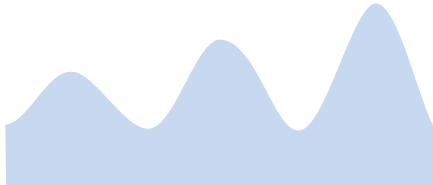
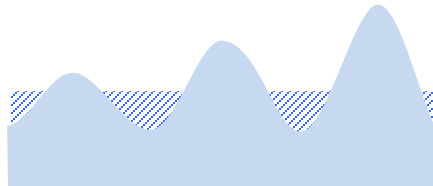
■ その他損益



営業利益 (億円)

保険種類ごとの特徴

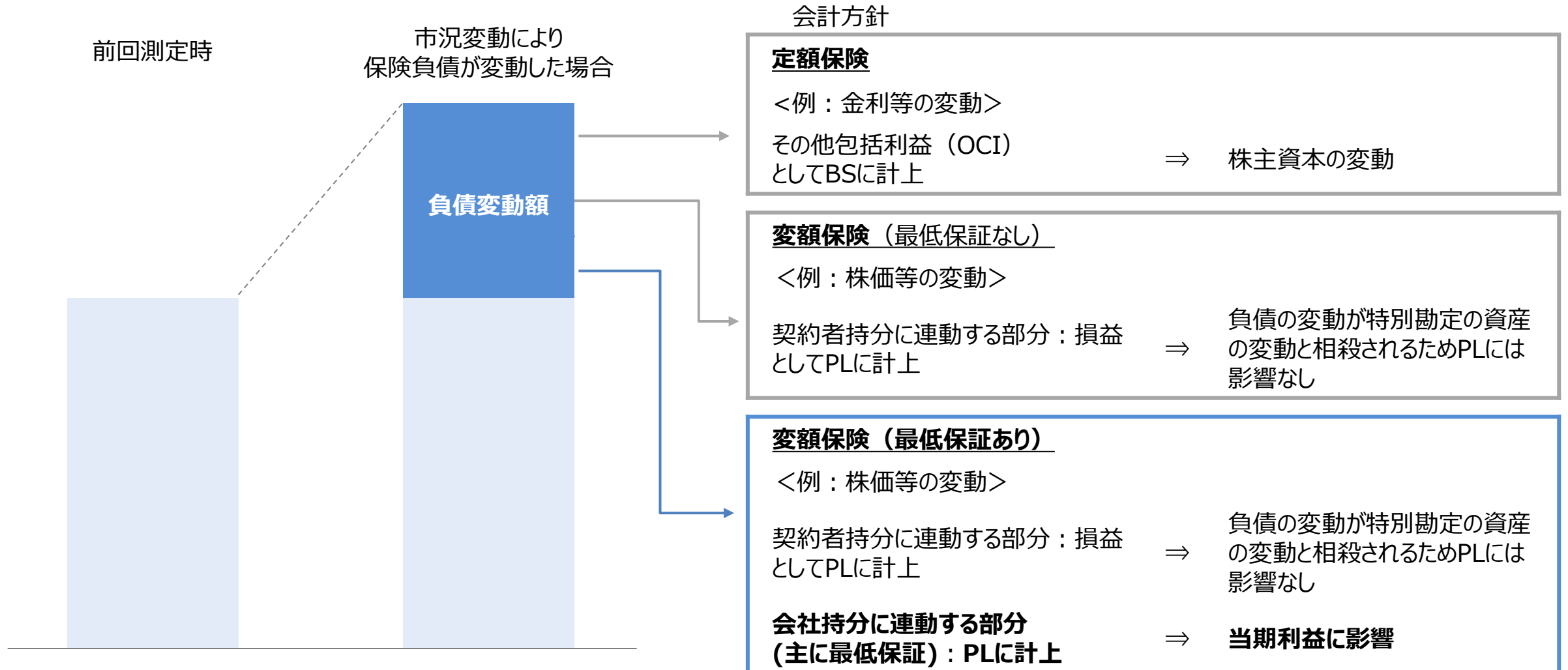
■ 変額保険（最低保証あり）では、運用実績が最低保証を下回った分を会社が負担

保険種類	保険金額	対応する資産勘定	市況変動による影響/運用実績の帰属先
定額保険	運用実績によって変動しない 	一般勘定	小 影響はBSに計上
変額保険 (最低保証なし) ¹	運用実績に応じて変動 	特別勘定	大 変動は契約者に帰属
変額保険 (最低保証あり)²	運用実績に応じて変動するが、 一定額（最低保証額）以下にはならない 	特別勘定	大 ただし、最低保証分は一般勘定 最低保証額を下回った部分は会社負担

1. SOVANI等の変額年金保険を含む
2. 原則として、死亡保険金および高度障害保険金のみ

IFRS第17号における取扱い

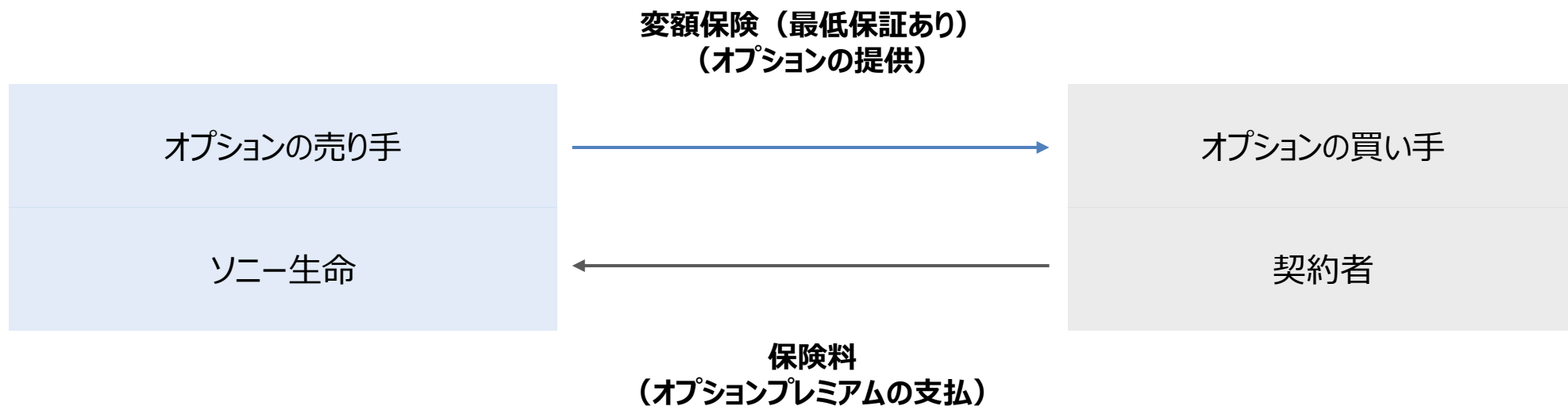
- IFRS第17号では、保険種類によって会計方針が異なる
- 変額保険（最低保証あり）については、最低保証部分に係る保険負債の変動を損益としてPLに計上するため、当期利益に影響



オプション取引としての関係

- 変額保険（最低保証あり）を一種のオプションと捉えると、ソニー生命はオプションの売り手としてオプションプレミアムに相当する保険料を受け取る

オプション取引としての関係

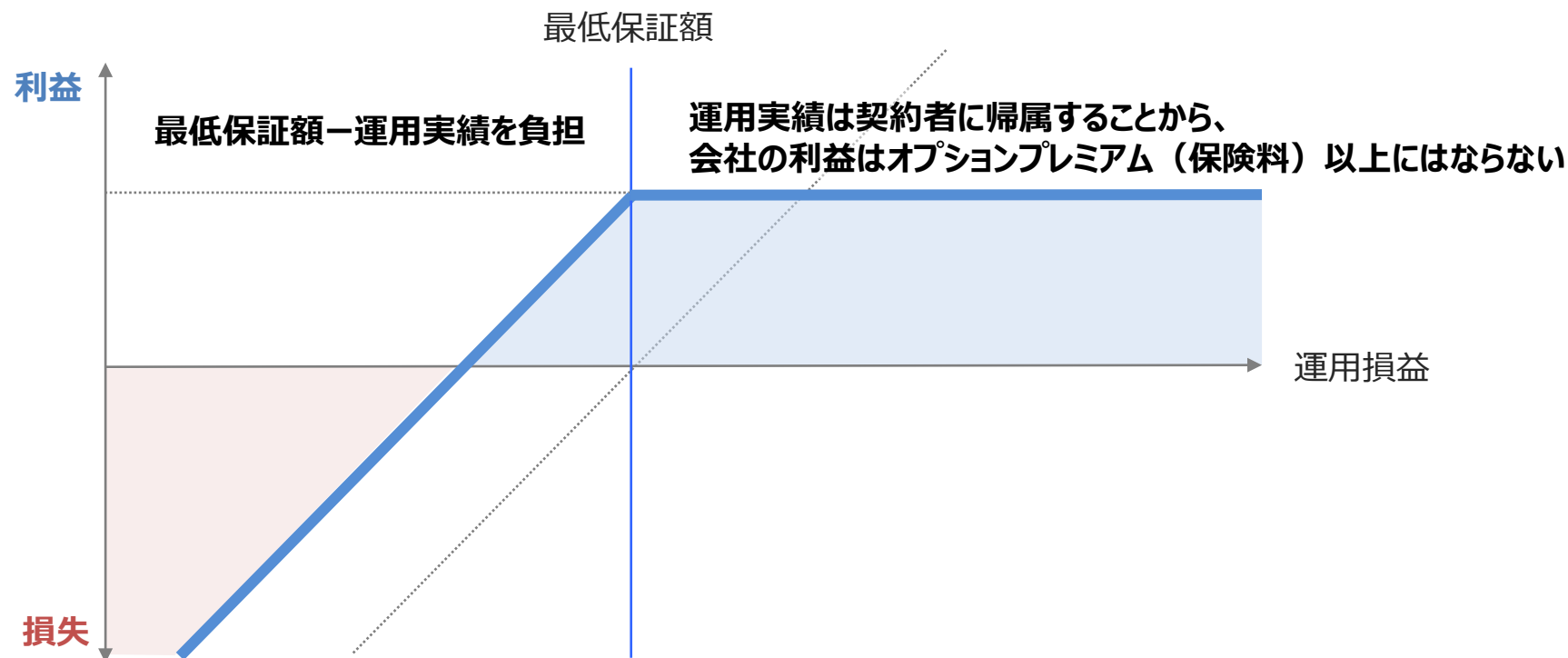


変額保険（最低保証あり）のオプション性

- 変額保険（最低保証あり）は、一種のプットオプション

変額保険（最低保証あり）

<会社損益イメージ>



損失を抑えるためにヘッジを活用

一種のプットオプション

<参考> プットオプションの損益

- 利益：最大でオプションプレミアム相当額
- 損失：権利行使価格 - 満期時の価格を支払

主な市況変動要因

- 市況変動要因のうち、インプライド・ボラティリティなど一部の要因はヘッジ対象外

主な市況変動要因とヘッジ対応状況

ヘッジ対象¹

変動要因	対象リスク	ヘッジ手段
金利	金利低下	一部債券への公正価値オプション（FVO）適用
為替	円高	米債レポ取引、為替予約
株式	株価下落	株価指数先物取引

ヘッジ対象外

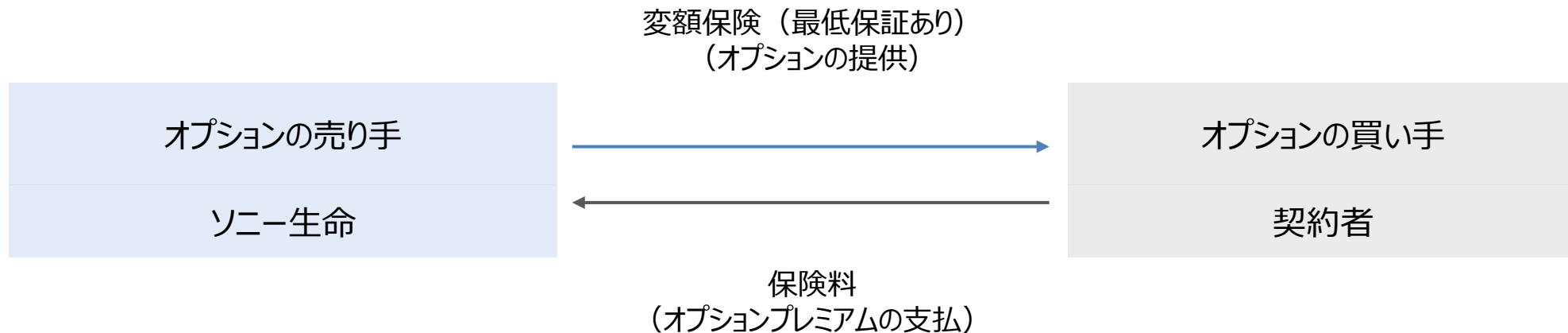
変動要因	対象リスク	性質・対応
インプライド・ボラティリティ	金利・株価・為替のインプライド・ボラティリティ上昇	<ul style="list-style-type: none">ヘッジが困難なため現状はヘッジ対象外一種のオプションとしての評価損益の部分に当たるため、満期にかけてリスクは減少
インフレ	インフレ率上昇 ²	<ul style="list-style-type: none">ヘッジが困難なため現状はヘッジ対象外

1. 変額保険に係る最低保証として会社に帰属する部分が対象
2. インフレ率の上昇は事業費の将来想定額の増加を通じて利益にマイナス影響



インプライド・ボラティリティ変動の影響

- インプライド・ボラティリティ上昇時、オプション価値が上昇するのに対し、オプションプレミアムに相当する保険料は一定



インプライド・ボラティリティ変動時の影響

インプライド・ボラティリティ	オプションプレミアム（保険料）	契約者にとってのオプション価値	
上昇 ↑	一定 →	上昇 ↑	損益悪化
下落 ↓	一定 →	下落 ↓	

現状の課題と対策

- 保有契約に変額保険（最低保証あり）が多く含まれており、市況変動が業績に大きく影響
- 商品戦略の見直しを進めており、加えてヘッジ手段の高度化や再保険の活用を検討

背景

過去、変額保険（最低保証あり）を含む終身保険を多く販売
（FY12における新契約（年換算保険料ベース）の約4割）

経営課題

保有契約に変額保険（最低保証あり）を多く含む
→市況変動により業績に大きな影響を与える

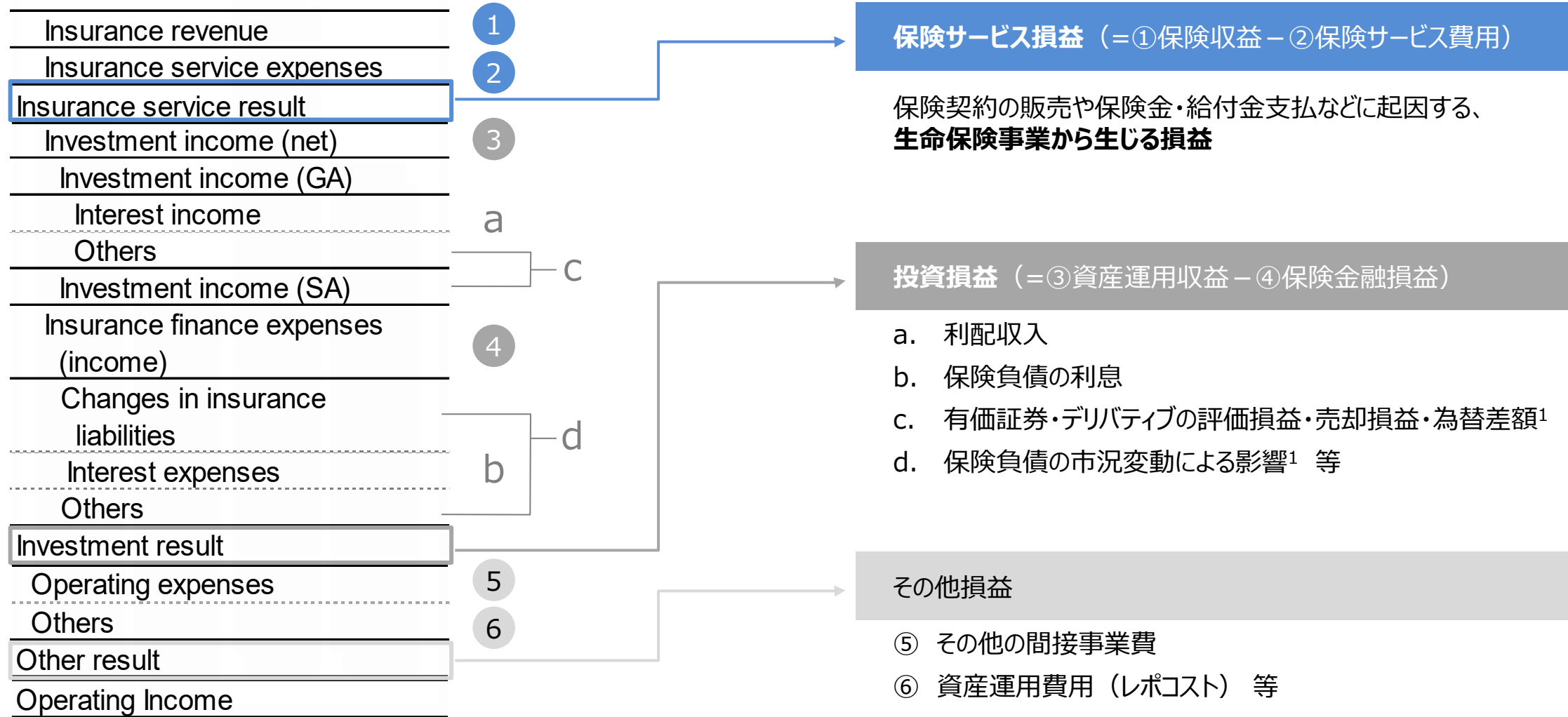
対応策

商品戦略の見直し → FY22における新契約（年換算保険料ベース）に占める
終身保険の割合は1割未満まで減少
ヘッジ手段の高度化を検討
再保険の活用を検討

Appendix

営業利益の内訳

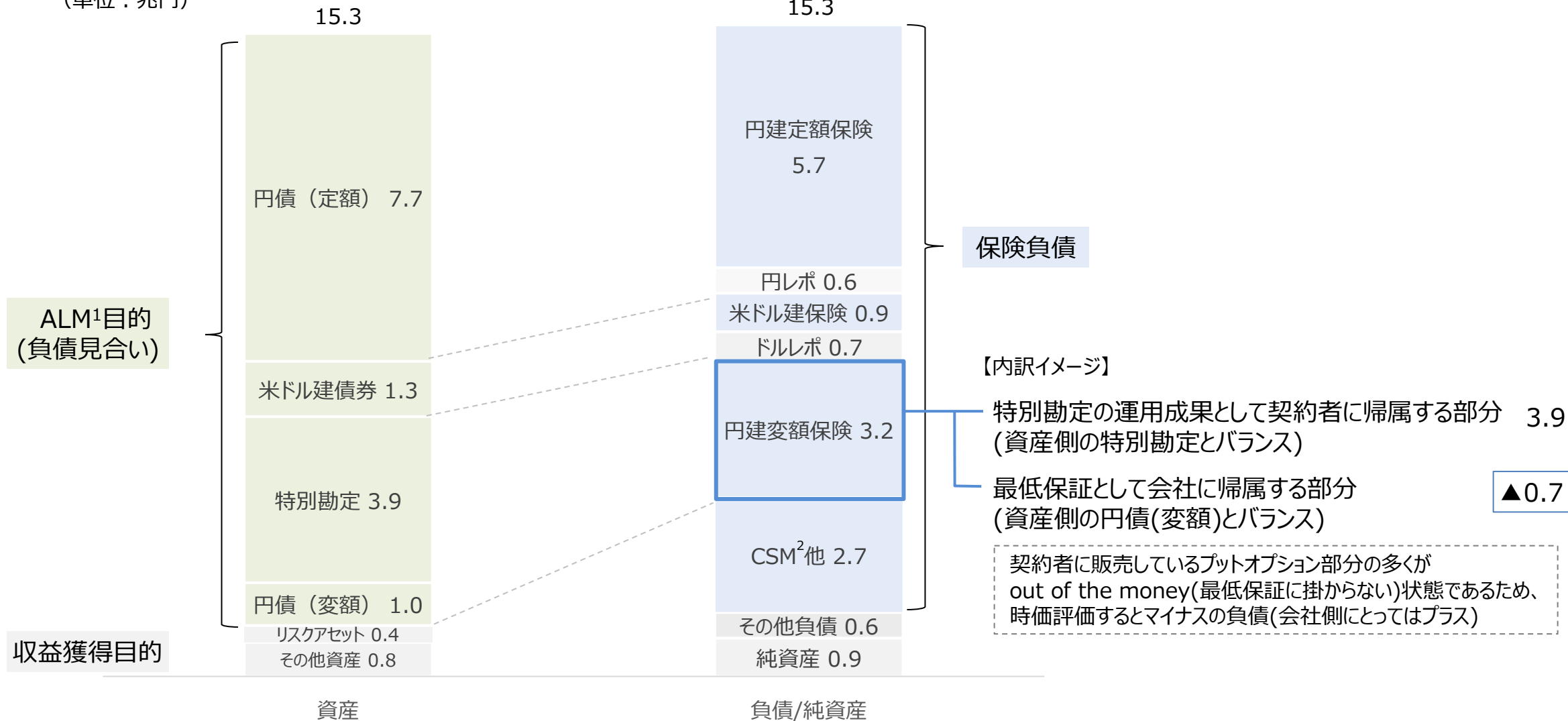
補足資料 (Supplemental) における開示項目



1. 外貨建保険に係る為替変動の影響を含む

IFRS17のB/Sイメージ (2023年12月時点)

(単位：兆円)



1. Asset Liability Management
2. 契約上のサービス・マージン

インプライド・ボラティリティのヘッジが困難な理由

1. インプライド・ボラティリティ影響の定量化が困難

- プットオプションの満期に相当するのは保険金等の支払時点だが、死亡などの保険事由の発生や解約などの契約者行動の影響を受ける
- 契約者は株価・為替・金利が組み合わされた8つのファンドに配分・スイッチングして運用。また、積立金(保険金の支払原資)の状況も契約者毎に異なる（最低保証に達する確率も契約者毎に異なる）

2. ヘッジ手段の確保が困難

保険契約の長さに相当するような超長期オプションが市場にない（流動性が極めて低い）

用語集①

用語	説明	関連箇所
保険負債	保険契約の帳簿価格。 「契約上のサービス・マージン（CSM）」と「履行キャッシュ・フロー」の合計額。	貸借対照表（負債の部）
契約上のサービス・マージン（CSM）	「保険契約サービス」を提供するにつれて認識する未稼得の利益。 契約上のサービス・マージン（Contractual Service Margin）を略して「CSM」と表記している。 保険期間を通じて償却され、償却額が各期の「保険収益」に認識される。	損益計算書 貸借対照表（負債の部）
履行キャッシュ・フロー	保険契約を履行するための金額。将来キャッシュ・フロー現価と「リスク調整」の合計。 前年度末に見込んでいた（予定していた）当期の「保険サービス費用（取り崩し額）」を「保険収益」に計上する。	損益計算書 貸借対照表（負債の部）
リスク調整	保険契約を履行するにつれて生じる金額及び時期に関する不確実性の負担に対する対価。 非金融リスクから生じたものを計上対象とする。 前年度末に見込んでいた（予定していた）当期の費用（取り崩し額）を「保険収益」に計上する。	損益計算書
金融資産OCI	主に、保有債券の金利変動による評価額変動（含み損益）を計上する項目。 「公正価値オプション（FVO）」を使用する場合は本項目に計上されない。 その他の包括利益（Other Comprehensive Income）を略して「OCI」と表記している。	貸借対照表（純資産の部）
保険負債OCI	主に、「履行キャッシュ・フロー」の金利変動による評価額変動（含み損益）について、 PLに計上しない（純損益として認識しない）選択をした場合に計上する項目。	貸借対照表（純資産の部）
公正価値オプション（FVO）	会計上のミスマッチを除去または大幅に低減できる場合に選択可能な会計方針で、債券等の価格変動を純利益で認識。 変額保険について金利変動による純損益の変動を抑制するため、対応する債券の一部に公正価値オプション（FVO）を適用し、会計上のヘッジを行っている。	損益計算書 貸借対照表（純資産の部）

用語集②

用語	説明	関連箇所
保険収益	当期のサービス提供による保険負債の減額に対し収益を計上する。 主に、「CSM」の償却額、「履行キャッシュ・フロー」として予定していた「保険サービス費用」、「リスク調整」として予定していた当期費用から成る。 解約返戻金等の預り金部分を除外し計上する。	損益計算書
保険サービス費用	主に、保険金、給付金や、「直接維持費」から成る。解約返戻金等の預り金部分を除外し計上する。 「履行キャッシュ・フロー」として前年度末に見込んでいた（予定していた）当期の費用（取り崩し額）を「保険収益」とし収益の部に、実際に発生した額を費用の部に計上する。 「直接新契約費」は発生した期に全額を計上せず繰り延べ処理を行い、毎期償却額を計上する。	損益計算書
保険金融損益	金利、為替、株価、インフレ率変動に伴う保険負債の変動を保険金融損益として計上する。 以下の会計方針を選択している。 <ul style="list-style-type: none">定額商品全般、再保険契約において変動の大部分である金利変動による評価額変動（含み損益）をOCIに計上し、それ以外の項目（主に経過利息、為替差額）を純損益に計上するリスク調整の変動から保険金融損益を計上（分解し認識）しない	損益計算書
直接事業費	「履行キャッシュ・フロー」や「保険サービス費用」に含めるべき事業費の範囲内となる費用。 この分類は契約の履行に直接関連するかにて判断する。 直接新契約費（正式名称は保険獲得キャッシュ・フロー）、直接維持費から成る。	損益計算書
間接事業費	直接事業費の範囲外となる費用。代表例としては一部の商品開発や教育訓練のコストが挙げられる。	損益計算書
保険契約サービス	保険契約サービスとは、保険契約の保険契約者に提供する、保険事故に対する保障や、保険契約者のための投資リターンの生成（投資リターン・サービス）を指す。	用語集「CSM」